

平成 30 年度 墨田区立第三吾嬬小学校 経営報告書

平成 31 年 2 月 12 日

学校目標	◎1 よく考える子ども 2 健康で明るい子ども 3 責任感の強い子ども 4 こころ豊かな子ども
目指す学校像	「すべてはみんなの笑顔のために」 三吾小に集う子ども、保護者・地域、そして教職員、すべての人の笑顔あふれる学校
目指す子供像	「学ぶ」ということを通して、「思いやり」の上立つ「思考力・判断力・表現力」、「行動力」を身に付けようとする子供。そのために、主体的(proactive)に生きる子供
目指す教師像	① 教育への情熱と使命感にあふれた教師 ②自らも学び、子供とともに感動することのできる教師 ③社会人としての教養と品格のある教師

1 自己評価結果と学校関係者評価の状況

項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	分析と改善策	自己評価について	改善策について
各教科等指導	学校は、子供に確かな学力を育てるために、分かりやすい授業の実施に努めているか。	A	最終的には、学力調査による新年度の結果を見て判断すべきところではあるが、取組指標に挙げていた外国語活動に関する調査 91.6%、アクティブ・ラーニングに関する調査 91.7%の達成率であった。ICT 機器の活用も順調に研究を進めている。来年度へ向けての課題を明らかにして、さらに児童の学力向上・情報活用能力の向上に努めていきたい。	A	A
	学校は、特別な支援を必要とする子供に対して、組織的に適切な支援を行っているか。	A	教職員の取組としては、かがやき教室との連携を図り、支援が充実した学級は 95.8%。かがやき教室そのもののアンケートは実施できなかったので、来年度へ向けて拠点校と連携して、年間計画に位置づけていく。	B	A
	子供の将来の自立に向けた進路指導・キャリア教育・相談活動等について	A	9名の保護者・地域の方の特別講師を招いて実施し、児童の満足度も 94.3%と大変高いものだった。今後、保護者・地域の協力を得て、さらに充実を図る。	A	A
	学校は、教員の指導力・授業力を高めるために組織的に取り組んでいるか。	A	校内研究を充実させ、年6回・全学年での研究授業、2回の特別研修、英語活動公開研修会、自主OJT研修年10回等を実施し、児童の学力向上・教員の指導力向上に取り組んできた。ICTを使った指導により、児童の理解が進んだかについては94.5%の達成率であった。 「三吾学習スタンダード」は、改訂をはかり、授業規律の徹底と同時に、学校としての教育活動の個性化・特色化を図っている。 来年度は、分掌にOJT研修を企画運営する部署をつくり、さらに指導力の向上を目指す。	A	A
	言語能力、コミュニケーション能力の育成	C	過去7年間の研究成果の引き継ぎについては評価Bである。今年度実施した暗唱の取組は、保護者・地域には大変好評であるが、目標としていた各課題の合格者50%達成は、課題によって差があり、達成できたものは8課題中一つであった。英語の暗唱課題は、24.5%の児童が取り組んでいて、学校全体の機運は高まっていると感じる。 暗唱については来年度も引き続き実施し、各担任からの声かけを徹底させ、積極的な挑戦を促していきたい。	A	A
	学校関係者評価委員会の意見等		<ul style="list-style-type: none"> ・児童アンケートで「楽しい」と答える児童が多く、学力も向上することが期待できる。 ・英語の充実は、授業+暗唱によってよく進められている。 ・家庭学習について、今後も工夫を続けてほしい。学校外の施設(いきいきスクール等)でも協力できることはないか考えていきたい。 		

様式 4

項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価		
		達成状況	分析と改善策	自己評価について	改善策について	
生活指導等	学校は、子供の問題行動の予防や解決に組織的に取り組んでいるか。	A	毎週月曜日に行われる生活指導夕会を中心に、臨時の校内委員会の開催等、常に組織的な対応を心がけている。そして、早期発見・早期対応に努め、特に登校しぶりの児童に対する丁寧で根気強い対応は功を奏している。職員のアンケートでは、100%の教員が組織的に指導にあたっていると回答している。保護者アンケートの意識調査でも、三吾小のよところの第2位の意見として「教職員が熱心」と回答している。 今後も、担任任せにせず、組織で対応する姿勢と学校風土を継続し、いじめや不登校等の問題行動の予防・早期解決を目指す。	A	A	
	学校は、子供が基本的な生活習慣を身に付け、望ましい人間関係を作るための心の教育を行っているか。	B	「三吾あいことば」をよりどころに自主・自立、自律の精神を育成することに取り組んできた。児童が「意識して生活」という指標には83.7%の達成率で、目標の90%に届かなかった。取組方法の見直しを図り、来年度以降も引き続き指導を徹底していきたい。 道徳授業の充実を図り、児童の道徳性を高めてきた。授業の内容が児童の生き方の変容につながっているかの指標については70%以上の目標に対し、82.3%の児童が肯定的な評価をしている。来年度は指標をレベルアップし、さらなる充実を図っていきたい。	A	A	
	学校は、子供の安全を確保するための取組を行っているか。	A	危機回避能力の育成については、児童の97.4%が自分で自分の身を守ることができるかと回答している。保護者のアンケートでも同様で、避難訓練や安全指導等の成果は良好である。今後も、訓練の内容を年間3回分程度見なおし、さらに危機回避能力を高めていきたい。	A	A	
	学校は、子供や保護者からの意見や要望を把握し、教育活動の点検や改善に役立っているか。	A	組織的な生活指導、対応については、教職員アンケートで肯定的な自己評価が100%であった。児童や保護者アンケートを有効に活用し、組織的に分析・改善策の作成に取り組んでいる。今後、さらに一人一人の教職員の危機管理能力向上を目指して、研修なども充実させていく。	A	A	
	学校関係者評価委員会の意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・生活指導は教育の根幹に関わる部分でもあるが、よく行き届いている。 ・あいさつが、子どもから返ってこないことがあるので、さらに指導を徹底してほしい。 				

項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	分析と改善策	自己評価について	改善策について
学校の管理運営	学校は、管理職の経営方針に基づき、組織的な教育活動・学校運営を行っているか。	B	組織的な運営については、教職員の97.4%が肯定的に評価しているが、取組指標として掲げたサービス事故防止について、残念ながら事故案件が発生している。サービス事故防止の研修、教職員の啓発を今まで以上に徹底し、今後二度とサービス事故を発生させないような雰囲気を醸成する。	A	A
	学校は、子供の実態に合わせた具体的な目標の設定及び評価を適切に行っているか。	B	目標の設定、評価についてはおおむね達成されている。評価基準については、今年度まで曖昧なものであったため、保護者への説明責任を果たす最低限のものを作成した。来年度は年間評価計画を作成し、基準のさらなる明確化を計る。	A	A
	学校には、適切な教育活動が行える環境・設備等が整えられているか。	A	教育環境・設備については、保護者、地域から大変高い評価をいただいている。この恵まれた環境を最大限に活用し、来年度以降も教育目標の達成に向けて、最善の努力をしたい。特に、学校ICT化推進モデル校として、240台のタブレット型端末を導入されているので、研究を深め、児童の学力向上、情報活用能力の向上を目指していく。	A	A

様式 4

教職員の資質・能力の向上 働き方改革、ライフ・ワークバ ランスについて	C	教職員の資質・能力向上についての取組はほぼ 100%の実施 ではあったが、教職員の意識向上の目標である 70%の達成目 標に対して、50%、35.7%と低い結果であった。取組の意義や OJT の進め方について、さらに丁寧に説明を行い、組織的で、 主体的な研修に高められるような工夫を行う。	B	B
学校関係者評価委員会の意見 等	<ul style="list-style-type: none"> ・三吾小の教職員は信頼できる。 ・これらの取組は大変であろうが、教職員の喜びが児童の成長につながるものなので頑張っ てほしい。 ・働き方改革については、みんなで知恵を絞って進めてほしい。(自分の会社と比較して、よ くやっていると思う。) 			

項目	評価項目	自己評価		学校関係者評 価	
		達成 状況	分析と改善策	自己評価 について	改善策に ついて
家庭 ・ 地域 連携	学校は、教育方針や日常の教 育活動の様子などを分かりや すく伝えているか。	A	保護者会、学校公開、土曜学校公開、学校便り、学年便り、 学校ホームページの充実を図り、保護者アンケートで学校の 情報発信については 90:6%の肯定的評価を得ている。「校長語 らいサロン」は実質年間参加者が 10 名ほどであったので、来 年度へ向けては改善が必要。PTA の教養部との連携を図った 学習会などを計画中。	A	A
	学校は、保護者や地域の理解 や協力を得て教育活動を進め ているか。	A	保護者アンケートからも高い評価をいただいているが、児 童アンケートで地域や保護者の協力を得た特別授業の満足度 は 93.3%という好結果であった。学校の特色の一つとして、 今後地域や保護者との協働の子育てを推進していきたい。	A	A
	保護者・地域の意識の把握と 啓蒙活動について	B	学校評価アンケートの大幅改訂により、取組指標と成果指 標の両面を詳しく評価していただき、把握することに努めた。 アンケートの回収率は 85%超で、良好な結果分析ができた。 「家庭学習の手引き」は、当初の予定からひと月遅れでの 発行となったが、よい効果を生み出すことができた。 学校環境の整備、英語による HP やその他の案内の充実など は、保護者・地域に好評である。 今年度「三吾小に子どもを入学させてよかった」への回答 に 88%の肯定的な評価 (うち 60%が「よく当てはまる」と 回答)を得た。目標値の 80%は超えたが、来年度以降、100% を目指しさらに信頼される学校経営を目指していく。	B	A
	学校関係者評価委員会の意見 等	<ul style="list-style-type: none"> ・学校以外の行事にも関心をもってほしいので、さらに努力してほしい。 ・開かれた学校、であることを強く感じる。 ・HP の更新がほぼ毎日されていて、充実している。 			

2 平成 30 年度学校評価のまとめ

<p>本年度は、学校独自の「学校経営計画・学校評価表」に基づき、組織的に PDCA サイクルを意識した経営を実施した。また、学校 評価を行うためのエビデンスとして、「取組指標」と「成果指標」の両方が明らかになるマークシート形式のアンケートを組織的に作成 し、実施した。結果から、校長の交代という大きな節目の年に、スムーズな引き継ぎ (成果の継承と課題の把握、改善) とこれまでの 教育活動の総括を行う「平成の三吾小を総括する年」とすることができたとと言える。</p> <p>今年度の評価を受け、来年度に向けての教育課程の編成、経営計画の作成に入っている。「新しい時代の三吾小の教育」の創造にむ け、新しい教育目標の制定を行うことにしている。保護者の満足度 88%と、学校運営連絡協議会からは賛同と今後の学校教育への期 待を受け止めることができた。また、保護者の学校教育に寄せる期待に関する意識調査も実施することができた。それらを受け、人権 尊重の精神に則り、服務事故防止に努め、教育目標を達成する学校経営を推進していく所存である。</p>

以上の通り報告いたします。

墨田区立第三吾嬬小学校 校長 川中子 登志雄 公印